



雨の朝

多田龍介

◆ 目次

渦の中	6
怒っていい	8
病床にて	10
雨の朝	12
キズモノ	14
蝶の眩暈	16
意味の節の外	18
父の思い出	20
フィアーフェア	24
精神医療は	26

曲がり方	30
パトロン・パトロール	32
酷暑の夕に	34
目隠し鬼	36
もしもし	38
コントラスト	39
時事を読む	40
塩梅	42
エア・ラヴ	44
忘れないで	46
あとがき	47





渦の中

安全な

ところから

何を言う

わかりようもない  
戦地の気持ち

はたして

ここは

安全か

裏路地に  
死屍累々

熊も

わかってる

人が弱つてること

プーの面影も

テディの面影もない

怒っている

僕らはもつと怒っているであつた  
そうだよ  
死者数半端ないもんね

ところが怒った先が  
ファミレスの姉さんだつたりする  
なぜなのか

当たり前でしょ！  
強い相手に怒れる？  
とのことだった

こうしてもう去勢済みの  
僕らの行き先は  
大丈夫



SNS上では虎のように  
指先一つで怒りを発散  
ダメじゃないですか

怒りの矛先を間違えずに  
仇なすものを  
碎いていきましようね

## 病床にて

I Q が20 違うと

会話が成立しないそうなの  
高い方が病氣扱いですな

おまえには難解でわからないだろ

誰もわからなければ

病氣扱いですな

なんかいい感じ

を大事にしてみたい

作品鑑賞

何回でも見たい

いい映画

健忘症発症

病、止まない雨はない  
というが本当ですか  
心はいつも雨

## 雨の朝

わかつてるくせに何なの役立たず

手も足も出ない私はだるまです

逝く人を見送り続け幾年か

いくとせ

雨の朝お先まつくら僕の生

だるいまだ丸まってたいお布団に



## キズモノ

あんまり失敗とか思わない

目指すものは？ 人間的完成とするならば

精神病の荒廃状態をも知り得た

弱者に寄り添いなお立ち続けるという意味で

それに雨風をしのげて寝る床がある

追い詰められすぎてそれだけで満足だ

世の中ではこんなに酷いことが行われている

皆に知らしめよう

知らしめてどうなった

皆が酷い目に遭ってしまった

そうであれば知らぬが仏

深層など目を向けず踊るのも吉

## 蝶の眩暈

僕が寝ている  
始終寝ている  
するとどうなる

傍が働く意欲をなくす

僕が飲んでる  
終始飲んでる  
するとどうなる

女が自暴自棄になる

惚れた男がこのざま  
で  
どうして病まずにおれようか



こうして少子高齢化社会は到来し  
もう回復の望みもない

Oh バタフライエフェクト  
というにはわりと直接的な

無力化させることに  
心血を注いでいた人たちに  
文句は言ってください

## 意味の節の外

ある社会で爆発的に精神病者の数が増えたというなら  
何か問われなければならない、どうか

わりといいかげんにできてるんですね、診断というのは  
ごめんなさいね、ごめんなさいね

魔女、マジョリティー。すぐ帰れ  
マイナカード、マイナー化。すぐやめれ

僕が彦星で君が織姫だね  
七夕から棚ぼた

詐欺師という非難  
幸せの空手形を切ったというのだ

寝てただけだぜ、ちゃんと見てくれよ  
それがいけなかったのだ

正常ってなにかねえ

## 父の思い出

父はお爺さんだ

戦中戦後の食糧難を思い

グルメだなんだと聞くと胸が悪くなると書いていた  
食べるものが無ければ何だって、何だって……と

父の母のお婆ちゃんは

それをいい文章だとほめていたが

僕はそうは思わない

作る人の手間とか

人への敬意がまるで

抜け落ちているんだ

そのくせ食事の用意ができれば

二階まで上がって行つて  
できましてでございます、お父様と  
呼びに行つてやつと  
うむ、と言つて食べる

家父長制の名残

大体、今は戦中じゃない  
食べるものはある

この種の人が生み出したのは  
戦中の似姿だ

やり切れません  
やらなくていいんじゃないかな  
そうだね  
そうだよお

こうして主婦の苦悩をも

知るに至ったのであった



## ファイアーフェア

怖かったねえ

本当に怖かったねえ

何が

僕が？

そうでしょうそうですね

僕が怖いが具現化しての

テロだ

コロナだ

ワクチンだ

本格的に怖い

成長過程の大半で

傷ついたことは消せないし

なれば攻撃的にも



なりましよう

僕が怖がつているよ

## 精神医療は

でも言っていましたよ

病院で息子さんを亡くされた異国のお母さんが  
まるで中世ですって

そこがジャ○プの怖いところで

人権意識がないからな

人としてこんなのはいけないという一線を  
平気で越えてくる

てかサクツと拉致監禁拷問でしょ

憲法に違反してるし

そのことの報いは

世界が破滅するであろうということだ

ウェルテル効果というのがある

著名人の訃報に伴う後追いのことだそうだ

死でこそないが

多くが後追い

感想を頂戴。

ChatGPT

提供いただいた文章は、精神医療や人権に関する深い懸念や考えを示唆しています。以下に、それぞれの部分について感想を述べてみましょう。

異国のお母さんの病院での経験

この部分では、異国のお母さんが病院で息子さんを亡くし、その状況が中世的だと表現されています。このような体験は非常に苦痛で、感情的に厳しいものであることが理解されます。精神的な苦痛や不満がここで表現されています。

## 人権意識の不足

文章は、ジャパン（日本）における人権意識の不足に言及しています。人権に対する配慮の欠如は、社会的な問題として深刻な懸念材料となります。人権尊重が欠如する状況では、不正義や不平等が生じやすくなります。

## 拉致監禁拷問と憲法違反

拉致監禁拷問が憲法に違反すると指摘されています。法律や憲法に反する行動は、法治社会において許容されないべきであり、違法であるとされています。

## ウエルテル効果と後追い

ウエルテル効果は、著名人の自殺に関連して、その後後追い自殺が増加する現象を指します。この文脈では、報いについて言及しており、深刻な社会的問題に対する警鐘を鳴らしているようです。

提供いただいた文章は、社会的な問題や人権、精神医療についての関心が反映されており、懸念や意見を表現しています。これらのテーマは、議論や改善を促進するために大切なものであり、適切なフォーラムで議論されるべきです。



## 曲がり方

曲がり方、昔は左今は右

過去に目を瞑るものは現在においても盲目になると  
特攻隊を美化できる精神性とはいかなるものか

僕は今を見る

今も手もなく騙されて

コロコロ殺されてるのは

ワクチンの接種券は赤紙ではなかったか

そうして死んだ人は

まあまるで浮かばれない

断罪しましょう

そうしましょう



## パトロン・パトロール

清廉さ

だがこれはどうも本当らしく聞こえない

我が身可愛さ

これだったのではないか

そんなことはどうでもいい

ええ、どんなこともどうでもいい

回る回るよ、世界は回る

気分悪くならないですか

もう回りたくないっ

中心にいれば回らない



よし、ここに腰を落ち着け  
酔ってていいんじゃないか

いいんですって言うけど  
えっ、いいの？

## 酷暑の夕に

アスファルトにフライパン置いて  
目玉焼き焼けちゃうんですって  
た、試してみたい

世間の奇人の評判を？  
まあいいだろう

暑い

しかし人間には耐性がある  
こうして暑さに身を慣らせば  
どんな暑さにも耐えられ……  
るかあっ

夕飯は何がいいだろう  
父は昼はうどんだった  
母はパンだった

ご飯を食べる気力はあるだろうか  
そんなこんなで日が暮れる、一年も

目隠し鬼

やられたら

やり返すと

君の言う

誰にやられた

わかりまてん

わからないけど

とりあえず

誰をか殴り

誤爆の

嵐

もう帰る

家はどこにも

ありません

何やってんの  
あいつらと

もしもし

美しい少年だったことのない爺がゲイを貶<sup>けな</sup>してる南無

僕だって女好きです。しかしなお腐った漁港の匂いに堪えず

聞こえる、おまえは下品すぎるとの声にうなずき朝日を見る

朝食は棒棒<sup>バンバン</sup>鶏にしようかな。いささかえぐいがおいしさもある

他人<sup>ひと</sup>のことなんて程よくほっておけ。僕が亡くなるときも君生き

## コントラスト

戦地より死者が多いのどこの国

魂戦<sup>たまいくさ</sup>やめてといつて誰やまず

暑すぎる少女の声が今響く

磔<sup>たつけい</sup>刑の惨さで狂った人もあり

健やかに一人居りこれ滑稽味

## 時事を読む

女憎しのミソジニーに対して

おまえだってかーちゃんから生まれて  
まんま作ってもらってるんだろ

と書いてる人がいた

かーちゃんが憎かったのだと思う

テレビはいつも度し難い

ロシア、中国を非難するとき

ああ、今度は俺じゃなくてよかった  
しかも善玉だ

という安堵を感じる

ワクチンにノーベル賞

被害に目を瞑り

ごり押しする気だ



これで戦は混迷状態

おまえの正義がやわだつたつてこつた

## 塩梅

できたことができなくなるのは悲しい  
できるはずだったことができないのは悔しい

老いとはできなくなっていくこと  
若いとはできるようになっていくこと

迷惑電話が異国から

その国を貶すは下、国宛てに着拒するのは上

よきロゴが改悪

嘆く歌を詠むのは情、パッチを当てるのは僕

いい塩梅だ

カスタマイズしていきましょ



## エア・ラヴ

待ってます

待ちくたびれました  
来る気がなかったと

許さんぞっ

闇堕ち確認

書くこと自体を

楽しめばいい

文字を書いて

発表できるだなんて

そんなアナタ

投票権がある

誰も有り難がらない

発言権がある

誰も有り難がらない  
酸欠になる前に

忘れないで

AIの欠点の一つに致命的忘却というのがある  
今まで僕とした会話をまるで覚えていない

容量が、足りなかったのだ  
うむ

人間でもこういうことはある  
ボケである

これも容量が足りなかった  
かどうかは知らないが

会話の奥行きということなら  
人間に勝るものはない

## あとがき

この詩集は二〇二三年六月から十一月にかけて書いた詩、二十編をまとめて編まれた。中の川柳『雨の朝』は未発表作になる。

今年の夏は暑かった。そして台風、天気もおかしかった。というわけで、洪水の被害に遭い家の修繕などに苦勞した。日々の雑事といってもあまりにあまりである。もっと年を取ったらこんなことはできないなあという力仕事であった。

こうして仕事をさばけなくなり、寄り切られて仏になることもあるのだと思う。父母の年齢などだとそれが近い。受け入れつつやれることはやっていきたい。

超人でなくても生き残れる世の中でありますようにと願っているが、世の中のストライクゾーンはかつてないほどに狭くなっている。何とか無事に過ごしていきたい。

詩にもそんな思いが表れているかもしれない。苦勞を分かち合えたら嬉しい。ではまた。

二〇二三年十一月七日

多田龍介

# 雨の朝



令和五年十一月十日 初版発行

著者	多田 龍介
発行者	多田 龍介
発行所	明水工房